

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月10日現在

機関番号：12604

研究種目：基盤研究（B）（海外学術調査）

研究期間：2010～2012

課題番号：22401004

研究課題名（和文） 地域間競争下のEU都市観光化へのエスニック集団の対応
—アジア系外国人の適応と戦略

研究課題名（英文） Activity of ethnic groups on tourism of the EU cities: adaptation and strategy of Asian minorities in Europe

研究代表者

加賀美 雅弘 (KAGAMI MASAHIRO)

東京学芸大学・教育学部・教授

研究者番号：60185709

研究成果の概要（和文）：

EU域内の大都市（特にウィーン）で急増する東・東南アジア出身の労働者の集住地区と、彼らが積極的に展開する商業ビジネスを研究対象とし、彼らがいかなる戦略に基づく居住を行っているかを検討した。その結果、アジア系外国人の適応と戦略として、（1）彼らの居住地選択およびビジネスの展開における多様な外国人相互の情報交換と協力、（2）アジアのエキゾチックな文化の商品化、（3）都市整備などの公共事業対象地区への進出とそれに伴う利益の獲得、の3点が明らかになった。

研究成果の概要（英文）：

In this study process of adaption and strategy of foreign workers coming from eastern and southeastern Asia was a target of the analysis. As field of the research Vienna and Amsterdam of the EU large cities in Central Europe were selected. These researches reached to a goal on ethnic groups with some results. 1. Exchange of information and cooperation of various foreign groups, 2. Commodification of ethnic Asian culture, and 3. dwelling and business in urban development project areas.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
2011年度	2,600,000	780,000	3,380,000
2012年度	2,600,000	780,000	3,380,000
年度			
年度			
総計	8,900,000	2,670,000	11,570,000

研究分野：人文地理学

科研費の分科・細目：地理学

キーワード：市街地整備，都市再生，インナーシティ，エスニック景観，EU拡大

1. 研究開始当初の背景

世界的な人口移動の激化に伴って、ヨーロッパでは外国人や移民の流入が顕在化している。こうした動きは、ヨーロッパ地域研究を進める上で、伝統的な地域文化や地域社会に着目した従来の研究視点では十分に把握しきれない状況にあることを意味している。

その一方で、EUによる地域統合が進むヨーロッパにおいて、都市間の競争は激しさを増しており、都市の中心性を強化する一環として行政主導の都市景観の整備と都市の観光地化が進められている。

ところで、都市に流入する外国人は増加の一途をたどり、なかでも近年は中国やタイ、

ベトナムなど東・東南アジア出身の外国人労働者が多く居住する傾向が目立っている。彼らの多くは料理や物産など独自の文化や生活様式を用いたビジネスを展開しており、多くの顧客を得て利益をあげている。観光地化を進める都市において、彼らが営むビジネスはどのような位置を占めているのか、ヨーロッパの伝統文化、歴史的景観を強調する都市の観光地化と、アジアの文化を商品化する外国人の行為がどのように関わっているのか。EUの都市の変化を知る上で重要な視点ではないかと考えた。

2. 研究の目的

EU域内では、地域統合が進むにつれて都市の観光地化の傾向が目立つ。その一方で、ヨーロッパ外の地域からの人口流入が活発化しており、両者の関係を明らかにすることは、今後のEU都市の動向を知るうえで重要だと考える。特に近年はアジア系外国人の数が急増しており、ヨーロッパの都市は以前にも増して多文化性・多民族性の様相を強めている。ヨーロッパでは近い将来、従来とは異なる都市の形態や特性が生まれてくることも十分に予想される。

そこで本研究は、観光地化と外国人集団の規模拡大という二つの変化傾向がほぼ同時に進行している中央ヨーロッパの都市を事例として、外国人の集住地区や彼らが営む事業（生業）、彼らの団体（社会組織）などと連動した都市の観光地化の動向を明らかにする。そのうえで、観光資源化しつつある外国人固有の文化に着目しながら、ヨーロッパの都市社会における外国人集団の適応と戦略の動向を考察することを目的とする。

3. 研究の方法

EU都市における観光地化と外国人社会の関係を検討するために、とくにウィーン（オーストリア）とアムステルダム（オランダ）を事例都市として取りあげ、すでに居住の期間が長いイスラム系住民とともに、近年急増している中国、タイ、ベトナムなど東・東南アジア出身の外国人の居住および就業形態を、現地調査に基づいて明らかにする。

具体的には、外国人社会については、特に外国人集団が集住する地区「エスニックタウン」の形態（景観）や、彼らが経営する事業体「エスニックビジネス」、さらに彼らが組織化する団体「エスニックアソシエーション」の3点に着目し、外国人固有の文化が観光資源へと展開するプロセスと、その結果としての外国人の適応の特徴を明らかにする。さらに、こうした観光地化のプロセスを経ることによる彼らの都市社会への統合の可能性についても考察する。

なお、現地調査においては、以下の海外共同研究者との緊密な議論の機会を持ち、現地調査結果についての情報交換を行った。

Prof. Dr. FASSMANN, Heinz（オーストリア科学アカデミー地理学研究室・主任教授）とはウィーンにおけるアジア系外国人に関する議論を深め、ウィーンの観光地化に大きく寄与している点についての情報の提供を受けた。**Prof. Dr. KOVACS, Zoltan**（ハンガリー科学アカデミー地理学部門・主任教授）とは、中央ヨーロッパの都市における外国人の共生についての議論を進め、之に関する資料の提供を受けた。**Prof. Dr. LENTZ, Sebastian**（ドイツ地誌研究所・所長）とはヨーロッパの都市の観光地化と外国人との関係についての議論を進め、特に市街地整備地区における外国人居住の進展についての情報提供を受けた。

4. 研究成果

EUによる地域統合が振興しつつあるヨーロッパにおいて、特に大都市で急増している東・東南アジア出身の労働者の集住地区と、彼らが積極的に展開する商業ビジネスを研究対象とし、いかなる戦略を用いた居住がなされているかを検討した。具体的には、ウィーンとアムステルダムを主要な研究対象として選定し、中国、タイ、ベトナム出身者にしぼり、土地利用調査および聞き取り調査を実施した。

調査の結果、以下の3点が明らかになった。

(1) アジア系外国人の集住が、西南アジアやインド、北アフリカ出身の外国人集住地区にきわめて近接して生じる傾向が強く、外国人相互の情報交換やマーケットの共同利用など共存する傾向が認められる。

(2) アジア系外国人による料理店や物産店などヨーロッパの住民や観光客をターゲットにした商業ビジネスが積極的に行われており、アジアの文化やイメージなどヨーロッパにおけるアジアに向けられたまなざしに対応した料理や商品が選択・販売されている。なお、ベトナム人がタイ料理屋を経営するなど必ずしも出身地の文化を提供しておらず、いわゆる「借り傘戦略」をとる傾向を確認することができた。

(3) 市当局をはじめ、EUが実施する都市再生プログラムにおいて、外国人集住地区における住宅の整備と商業活動の推進がなされているなかで、アジア系外国人が当該地区に進出する動きが活発化している。整備がなされた建物や市場に店舗を構える中国人やタイ人は、同国人を労働者として確保して経営規模を拡大している。

以上の結果を踏まえた考察から、ヨーロッパにおけるアジア系外国人の適応と戦略に

ついて、以下のような特徴を指摘することができる。

(1) アジア系外国人が居住地選択およびビジネスを進めるにあたり、同じ年に居住する多様な外国人との情報交換のネットワークを確保しつつ、市場での出店・営業において協力関係をもちつつある。

(2) アジアのエキゾチックな文化に対するヨーロッパの人々のまなごしを踏まえて、魅力的な商品の選択や創作が積極的に進められている。

(3) 市や国などの行政をはじめEUの補助事業などによる都市整備事業が行われているが、こうした事業対象地区にアジア出身の外国人の居住が進んでいる。これらの地区への進出とともに彼らの商店などの経営規模は拡大し、より長期的に安定した生活が確保される傾向にある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計9件)

- ① 江尻直子, 加賀美雅弘, 旧東ドイツ地域の中小都市デーベルンにおける市街地整備, 東京学芸大学紀要人文科学系Ⅱ, 査読無, 64集, 2013, P25—45
- ② 山下清海, 江省温州市近郊青田県の僑郷としての変容—日本老華僑の僑郷からヨーロッパ新華僑の僑郷へ, 地理空間, 査読有, 5巻, 2012, P1—26
- ③ 矢ヶ崎典隆, アメリカの地理学, 地学雑誌, 査読有, 121巻, 2012, P771—786
- ④ 矢ヶ崎典隆, 近代歴史地理学への異次元からの視角と新しい研究アプローチ, 歴史地理学, 査読有, 54巻, 2012, P84—90
- ⑤ 矢ヶ崎典隆, 佐藤紘司, ロサンゼルス大都市圏における100のショッピングセンター, 東京学芸大学紀要人文科学系Ⅱ, 査読無, 63集, 2012, P53—73
- ⑥ 山本葉月, 加賀美雅弘, 都市再生事業による外国人集住地区の変容—ウィーン・ブルネン地区の事例, 学芸地理, 査読無, 65集, 2011, P11—34
- ⑦ 山下清海, 世界のチャイナタウンからみた横浜中華街, 地図中心, 査読無, 2011年12月号, 2011, P21—23

⑧ 山下清海, 福建省福清出身の在日新華僑とその僑郷, 地理空間, 査読有, 3巻, 2011, P1—23

⑨ 矢ヶ崎典隆, アメリカ合衆国ハイプレーンズを事例としたエスニック地誌の方法, 東京学芸大学紀要人文科学系Ⅱ, 査読無, 62集, 2011, P63—77

[学会発表] (計8件)

- ① 山下清海, ヨーロッパにおける新華僑のホスト社会への適応様式, 人文地理学会, 2012年12月1日, 奈良教育大学(奈良県)
- ② 加賀美雅弘, エスニック集団に着目したEU地誌の可能性—ロマをめぐる課題からの考察, 人文地理学会, 2012年11月17日, 立命館大学(京都府)
- ③ 矢ヶ崎典隆, 前適応概念を用いたドイツ人のアナハイム植民事業の再検討, 日本地理学会, 2012年10月7日, 神戸大学(兵庫県)
- ④ YAGASAKI Noritaka, Asian migration in the global geographic context, 7th China-Japan-Korea Joint Conference on Geography, 2012年8月4日, 東北師範大学(中国・長春市)
- ⑤ 加賀美雅弘, ドイツ・フォークトランド地方の野外博物館と地域再生, 日本地理教育学会, 2012年7月22日, 麗澤大学(千葉県)
- ⑥ 加賀美雅弘, ウィーンにおける観光空間の多様化—エスニック文化の商品化に着目した検討, 日本地理教育学会, 2011年8月21日, 秋田大学(秋田県)
- ⑦ 矢ヶ崎典隆, 佐藤紘司, 日本人の海外移住と日系野球の展開—アメリカとブラジルに関する若干の考察, 日本地理教育学会, 2011年8月21日, 秋田大学(秋田県)
- ⑧ 加賀美雅弘, 歴史軸を盛り込んだヨーロッパ地誌の試み—中心・周辺構造に着目した考察, 日本地理教育学会, 2010年8月20日, 山梨大学(山梨県)

[図書] (計8件)

- ① 加賀美雅弘, 原書房, EU統合のなかでの国民国家とエスニック集団, 小林浩二,

大関泰宏編，拡大EUとニューリージョン，2012，P2—14

- ② 加賀美雅弘編，朝倉書店，EU（世界地誌講座3），2011，156
- ③ 加賀美雅弘，記憶と戦略としてのエスニック景観，山下清海編，学文社，現代のエスニック社会を探る—理論からフィールドへ，2011，10—19
- ④ 加賀美雅弘，イタリア・南ティロール地方におけるエスニック文化と観光地化，山下清海編，学文社，現代のエスニック社会を探る—理論からフィールドへ，2011，113—128
- ⑤ 山下清海，エスニックという視点，山下清海編，学文社，現代のエスニック社会を探る—理論からフィールドへ，2011，2—9
- ⑥ 矢ヶ崎典隆，移民の適応戦略—南北アメリカのエスニック社会の比較，山下清海編，学文社，現代のエスニック社会を探る—理論からフィールドへ，2011，30—38
- ⑦ 大島規江，集住するエスニック集団—エスニック・エンクレイブの形成・拡大，山下清海編，学文社，現代のエスニック社会を探る—理論からフィールドへ，2011，48—57
- ⑧ 大島規江，アムステルダムにおける都市内居住地移動，山下清海編，学文社，現代のエスニック社会を探る—理論からフィールドへ，2011，129—146

6. 研究組織

(1) 研究代表者

加賀美 雅弘 (KAGAMI MASAHIRO)
東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号：60185709

(2) 研究分担者

山下 清海 (YAMASHITA KIYOMI)
筑波大学・生命環境系・教授
研究者番号：00166662

矢ヶ崎 典隆 (YAGASAKI NORITAKA)
日本大学・文理学部・教授
研究者番号：30166475

大島 規江 (OSHIMA NORIE)
茨城大学・教育学部・准教授
研究者番号：90420661